「支えのおかげ」

（九州大学　歯学部　歯学科）

こんにちは。合格体験記を書かせていただくことになり、大変嬉しく思っています。参考になるかどうかはわかりませんが、わたしなりの言葉で書かせていただきます。

まずは、私の受験生活についてです。私は弓道部に所属しており、お盆と年末年始を除くと、ほとんど休みがありませんでした。定期テストと大会の日程がかぶると、試験休みがないこともあり、あの時期は本当にきつかったことを覚えています。そんな日々を乗り越え、いよいよ引退。最後の大会が散々な結果で終わってしまい、「努力は報われるのでは？」と、弓道生活の意味を自分自身に問うようになりました。しかし同時に、「まただめだったとしても後悔しないくらい、今度は努力しよう。」と、受験生活に気持ちを切り替えることができました。そうして５月から受験勉強を始め、遊びに行くこともほとんど無くなりました。運動会では副大団長に選ばれ、夏休みは思うように勉強時間が確保できませんでした。ほとんどの人がそうなると思うので、短時間でどれだけ効率よくやれるかが勝負です。１０、１１月は多くの模試があったので、復習を怠らないようにしました。１２月から特別時間割が始まり、毎日マーク式問題を解くので、その日のうちにやり直すことを心がけました。その結果、センターでは第一志望校 C 判定、第二志望校 A 判定を得ることができました。私は私立大学を一校も受験していなかったので、どちらの大学を受けるか、正直とても悩みました。しかし、一年生のときから志望していたこと、先生方に十分可能性はあると言っていただいたことなどを理由に、第一志望校を受験する決心をしました。そして、地獄のような約一ヶ月を経て、合格を勝ち取ることができました。

次に、在校生のみなさんに伝えたいことを２つ書きます。

①感謝、尊敬の気持ち

三年間の高校生活を振り返ってみると、いつも誰かに助けられていたように思います。ずっと送迎をしてくれた父と友人のご両親。朝昼夜の食事を作ってくれた母。小さなことでも見逃さずに声をかけ続け、私の可能性を信じてくださった担任の先生。その先生を含む、最後の最後まで指導をしてくださった先生方。いつも笑わせてくれて、つらいときは心配してくれた友人たち…。他にもたくさんの人が私の高校生活を支えてくれました。普段は気づかないけれど、本当に苦しいときの少しの気遣いに涙が出そうになったり、身近な人の偉大さを思い知らされたりと、受験生活の中で大切なことに気づけました。私のように後から気づくのではなく、感謝、尊敬の気持ちを持って受験生活に臨んでください。

②一人で勉強しない

一緒に勉強する友人をつくるのは、早ければ早いほど良いと思います。私は三年生になって学校に残ったり、休日に図書館に行ったりするようになりました。そのとき、一人でするより、隣で頑張っている友人がいるほうが集中できました。たまに休憩のためにおしゃべり

をすると、リフレッシュできました。受験が近づいてくるとどんどん話す回数が減り、苦しそうな顔を見ることが多くなるけれど、「あの人がまだやるなら、私ももう少しやろう。」「終わったら笑顔でおしゃべりしよう。」という気持ちを持つことで、また頑張れます。私は友人たちがいなければ、受験を迎える前に力尽きていたと思います。また、先生方への質問も積極的に行くべきです。私はあまり行かなかったので後悔しています。展示ホールで先生を質問攻めにしている一、二年生を見て、「すごいなー」と、いつも思っていました。自分で意地をはって長い時間をかけて理解しようとするより、わかるまで質問をするほうが効率的です。

これから受験を迎える皆さんは、不安をたくさん抱えていると思います。しかし、今まで多くの人が受験を乗り越えているし、どんなに苦しくてもいつかは終わります。だから、あきらめさえしなければ、大丈夫です。自分の希望進路に向けて、突き進んでください。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。